

今月のトピック

給液装置のメンテナンスと
農家様からの問い合わせ事例紹介

冬本番の寒さを感じる季節になりましたが、2月・3月になると日射量が増えてくるため、給液量も増加させていきます。本格的に給液量を増やす前に、給液装置のメンテナンスを行い、灌水不足や肥料バランスの崩れを防ぎましょう。今回は栽培サポートセンターに2～3月に多くいただく問い合わせもご紹介します。

給液量を増やし始める前にメンテナンスしましょう

pH計・EC計の校正

pH計・EC計の取扱説明書を確認し、標準液を用いて**校正しましょう**。

→ pH計やEC計は、校正しなければ、少しずつ計測値がずれていってしまい、正しく計測できなくなってしまいます。最低限、半年に1～2回程度は校正を行い、給液や排液の現状を正しく把握できるようにしましょう。

ディスクフィルターの洗浄

給液装置のディスクフィルターは**ディスクを1枚ずつ擦り洗い**しましょう。

→ フィルターが詰まってしまうと、送水圧力が下がり、正常に灌水できなくなってしまう可能性があります。原水の水質にもよりますが、**2週間から1か月に1回は洗浄**しましょう。

* 汚れがひどい場合は、**ブラシ等を使用**し、1枚ずつ丁寧に**表裏両面**の溝の汚れを取ってください。

*** * 洗浄のポイント * ***

1. **「1枚ずつ」**洗うこと
2. **「表裏両面」**洗うこと
3. **「擦って」**洗うこと

動画 ディスクフィルターメンテナンスについて
(<https://youtu.be/oJ9IaUBN2z8>)



液肥ポンプの不調を発見するためのチェック項目

給液のECやpHを定期的に測定しない場合、植物の調子が悪くなってから液肥ポンプの異常に気づく可能性があります。液肥濃度の異常を早期発見し、正しい給液管理を継続するため、下記の2点を定期確認しましょう。

- ① 肥料原液（A液、B液）はバランスよく吸っているか（片減りしていないか）
- ② 普段と比べて、希釈倍率に対してECが低く（高く）ないか

確認事項に異常があり、原因特定が難しい場合は、
担当営業や弊社栽培サポートセンターにお問い合わせください。

実録！2・3月に栽培サポートセンターへ多く寄せられる問い合わせ

お問い合わせ内容①

質問

朝一番に葉水（溢液）が出て、果実に水滴がついてしまうのは問題がありますか？
また、葉水が増える原因は何ですか？（イチゴ）

回答

葉水が出ること自体は問題ありませんが、**その水が長時間、葉に残ってしまうことが問題**です。葉水が果実につくほど出ていると、大量に出すぎている可能性があり、なかなか乾かず病気の原因となることがあります。

○葉水が多い際の原因

朝の葉水が多い場合の原因として、主に以下の3つが考えられます。



1. 夜間の培地水分が多い

最終の給液時刻が遅い場合、培地内の水分が翌朝早朝まで持ち越されます。夕方の給液は早めに切り上げ、培地内を翌朝まで少し乾かすように管理をすると葉水を抑えられます。（給液最終時刻の目安は**日の入りの3～4時間前**）
→一回目の給液からすぐに排液が出る場合、夜間の培地内水分が多いと判断できます。二回目の給液が終わる頃に排液が圃場全体でポツポツ出始めるくらいの水分量が理想的です。

2. 夜間の飽差が低い

夜間の飽差が低い場合、夜間の蒸散が抑えられるため、培地内に水分が残りやすくなります。飽差を高めたい場合は、ハウス内を除湿します。定期的に暖房機が稼働するように、保温カーテンが閉じるタイミングを遅くし、ハウス内温度を暖房設定温度に近づけてから閉じましょう。（イチゴの一般的な飽差の目安は、0.5～1.0g/m³程度）

3. 早朝の温度・飽差が低い

夜間も根圧により植物は吸水しています。蒸散量＞吸水量となると葉水が出やすいため、日の出後の温度を上げて、飽差を高めることで蒸散を促進し、葉水の量を制限できます。

お問い合わせ内容②

質問

日射量が増えてくるため給液量を増やしてみようと思いますが、どうでしょうか。

回答

2～3月頃は給液量を増やし始めるタイミングです。
給液の管理変更の基準には以下の2点があります。（トマト、イチゴ）

1. 朝2回目の給液から排液が出るようにする
2. 排液率が20～30%程度になるように排液を出す

朝の排液が少ないなら、まずは最終給液時刻を後ろにずらします。
その後、時刻変更のみでも排液が足りない場合は給液回数も増やします。
まずは、**1回量は変更せず、回数での調整**することをおすすめします。

